

高山植物を観察しよう

(池の平自然園：吾妻郡嬭恋村)

[対象：小学校3年生以上]

★ねらい 池の平自然園の自然観察を通して、草花を観察することに興味を持たせると共に、貴重な高山植物や自然を大切に保護しようとする意識を高める。

1. 池の平公園が位置する高峰高原の概観

高峰高原は黒斑山(2,414m)の北西面から高峰山(2,092m)、箆ノ登山(2,227m)三方ヶ峰(2,040m)、そして、地蔵峠(1,720m)にかけての海拔2,000m前後の山岳地帯である。三方ヶ峰の北側の平地・池の平には高層湿原が見られる。この地域は本州中央高原型の亜高山帯と高山帯の植物が分布する。

その代表的なものがカラマツ群落で、高峰高原一帯に原生林が広く分布する。特に箆ノ登山のものは母樹林として保護されている。このカラマツ林の構成は単純でミネザクラ、ハクサンシャクナゲ、クマザサなどである。また、カラマツの林間には草原の発達も見られ三方ヶ峰や車坂峠ではヤナギラン、マツムシソウ、ハクサンフウロなどによって美しいお花畑が形成される。

鳥帽子火山群の高峰山、箆ノ登山、湯ノ丸山、鳥帽子山の上部はオオシラビソ、シラビソ、コマツガによって構成される亜高山針葉樹林となっており、山頂部は岩礫地でイワインチン、シラタマノキ、クロマメノキ、ツガザクラ、イワカガミなどの高山植物の群落が見られる。

この付近に分布が限られている植物としてはガンバイヅル、シャジクソウがある。また、日本のフウロソウ科の中で一番大きいアサマフウロを見ることができる。

2. 高山植物の観察(7月頃実施の場合)

[準備物]

・スケッチノート ・エンピツ

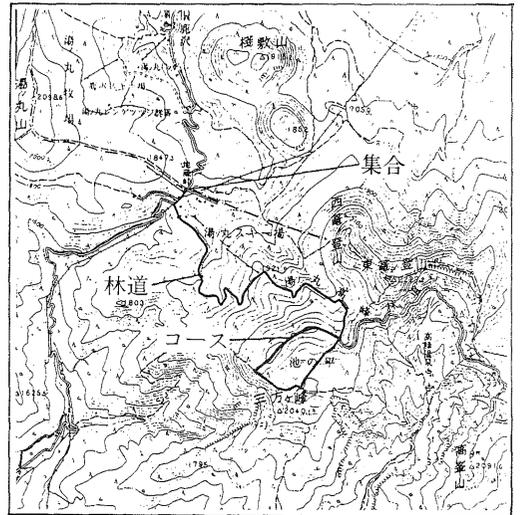
[コース](約120分)

駐車場——(a)登りの歩道沿いの草原——(b)針葉樹林——(c)岩場のコマクサ群落——(d)尾根

沿いの歩道——(e)下りの広い草原——駐車場

三方ヶ峰の西面のガレ場ではコマクサの群落があり、7月から8月中旬にかけて淡紅色の花を見ることができる。

池の平の湿原は、高層湿原で、ハクサンチドリ、アヤメ、コバギボウシ、ヒメシャクナゲ、ツマトリソウなどが美しく咲く。



1:50,000の地形図 上田

(1)コース全体での活動

観察コースは、草原から始まり、岩場や針葉樹林内などを通るので、生育環境の違いによって育っている植物が違うことを観察することができる。代表的なものを観察し、生育環境に目をむけさせたい。

○道順にしたがって、「草原」、「針葉樹林内」「岩場」に生育する植物を観察させる。

○次のような植物を扱う。

- ・草原——シロバナヘビイチゴ
- ・針葉樹林内——リンネソウ、ツバメオモト
- ・岩場——コマクサ

〔観察コース内で見られる植物（7月上旬）〕

㊶ アズマシャクナゲ	㊶ ハクサンフウロ	㊶ ミツバオウレン
㊶ ウメバチソウ	㊶ シロバナヘイチゴ	㊶ ハクサンシャクナゲ
㊶ シロバナエンレイソウ	㊶ マイズルソウ	㊶ シュロソウ
㊶ ハクサンオミナエシ	㊶ ミネウスユキソウ	㊶ ハナイカリ
㊶ イワカガミ	㊶ マツムシソウ	㊶ アヤメ
㊶ アキノキリンソウ	㊶ ヤマトタマキ	㊶ ツバメオモト
㊶ クロマメノキ	㊶ クルマユリ	
㊶ コケモモ	㊶ ヤナギラン	
㊶ シラタマノキ	㊶ リンネソウ	
㊶ スズラン	㊶ レンゲツツジ	
㊶ タケシマラン	㊶ グンナイフウロ	
㊶ ハクサンチドリ	㊶ ゴゼンタチバナ	
㊶ ツツトリソウ	㊶ シヤクソウ	
㊶ チガチドリ	㊶ タンバイソウ	
㊶ トンボソウ	㊶ ササラドウダン	
㊶ ネバリノギラン	㊶ コバイケイソウ	
㊶ ノギラン	㊶ マルバダツバキ	
㊶ ハクサンイチゲ	㊶ ペニオナイチヤクソウ	
㊶ ヒメイチゲ	㊶ イワインチン	

（唐沢 剛作成）

(2)コースの各ポイントでの活動

①「メオトバナ（夫婦花）と呼ばれる花を見つけよう [観察地点(b)リンネソウ]

ここでは、花が2つ並んでついているリンネソウが観察できるので、「メオトバナ」と呼ばれていることを動機づけにして、花のつき方に視点をあてた観察をさせ、平地では見られない特殊な植物が見られるという意識を高めたい。

- 花のつき方から「メオトバナ」と呼ばれる花が見られることを知らせ、探させる。
- 必要に応じて、「夫婦」の意味を知らせる。
- 探す場合は、花を触ったり、



- 付近に踏みいったりしないという約束をさせる。
- 花は7月に開き、うつむいて咲く。常に2個ずつあり、微腺毛のある細い柄の先に並んでいるので、「メオトバナ」と呼ばれている。

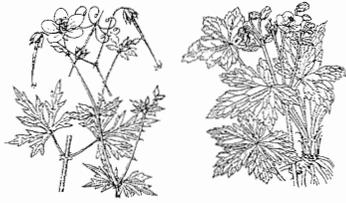
②2つの花の違いを見つけよう [観察地点：(b)ハクサンフウロとグンナイフウロ]

ここでは、同属の種で、花のつくりが似ているハクサンフウロとグンナイフウロを観察すること

ができるので、その区別をさせたい。

- 2つの花（ハクサンフウロとグンナイフウロ）を示して、違いを探させる。

- 必要に応じてルーペを使用させたり、スケッチさせたりする。



ハクサンフウロ

グンナイフウロ

- 下の表を用意

しておいて、記入させてもよい。

	ハクサンフウロ	グンナイフウロ
花の色	紅紫色	濃紫色
茎や葉柄の毛	ねる	長くて立つ
がく片の毛	ねる	立つ

③「高山植物の女王」を観察しよう。[観察地点：(c)コマクサ]

ここでは、金網によって保護されているコマクサの群落が見られるので、じっくり観察させながら貴重な植物であるという意識を高めたい。

- 次の点にふれて、コマ



コマクサ

クサの特徴を話す。

- ・名前が「子馬」の頭に似た花であること
- ・生育場所が岩場であること

④同じ仲間の2つの花の区別をしよう「観察地点：(d)ハクサンチドリとテガタチドリ」

ここでも、美しく咲く花で、同属の種であるハクサンチドリとテガタチドリが見られるので、相違点を見つけさせる活動を通して、観察眼を養う。

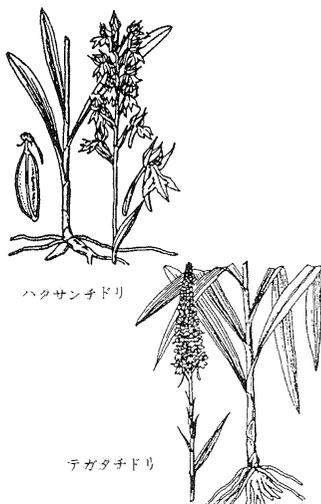
○次のことをも

とに、同属の植物であることを知らせて、観察して区別させる。

- ・葉の形や葉脈
- ・葉のつき方

○必要に応じて

下の表を用意して、記入させる。



ハクサンチドリ

テガタチドリ

	ハクサンチドリ	テガタチドリ
葉の数	3～6枚	6～10枚
花の数	10個前後	20～40個
1つの花の大きさ	大きい	小さい
花の破片	先が長くとがる	とがっていない

⑤好きな花をスケッチしよう「観察地点：(d)」

この辺りは下り斜面の広い草原で、活動が比較的楽に行えるし、それまで見てきた花も観察できるので、じっくりと観察できる活動をさせたい。

○花の名前をあてたり、好きな花を決めて、スケッチさせる。

〈スケッチに適する花〉

- ・ハクサンチドリ——ラン科の花の特徴を示す
- ・ヤマオダマキ——形が面白い（オダマキとは糸

巻きのことである。）

- ・ハクサンフウロ——最もたくさん見られる（ゲンノショウコと同属）
- ・シャジクソウ——鮮やかな紅色のマメ科の花



ヤマオダマキ



シャジクソウ

○名前あての活動では、次のようなものを示してもよい。



ハクサンシャクナゲ



グンバイソウ



ハナイカリ



コバイケイソウ



コケモモ



ネバリノギラン



シラタマノキ



キンレイカ